

岡崎別院総合整備 落慶法要特別号

四月二十六日（土）
岡崎別院総合整備
落慶法要

五月十一日（日）
おかざき
フェスティバル



第63号
令和7年
(2025年)
4・5・6月号

発行
岡崎別院
輪番 福田大

往生浄土の確かな歩み

さて宗祖親鸞聖人は、それまで二十年間の比叡山生活で、どれほどの師に出会われたか。教えてくれる師、叱り褒めてくれる師、ヒントしてくれる師、不十分を指摘する師・・・しかし、法然上人は、丁寧に聞いてくださり、分かってくださり、共感してくださる師でありました。

この末法（教行証のうち行も証も失われている）の世に、自らの知恵と努力・気力の限りを尽くし、命がけで仏道の高みを目指して精進してきたが、その達成の困難さに立ちつくしておられたのが、二十九歳の親鸞聖人であったと思われます。しかし同時に、自らの能力の限界と煩惱の根深さを思い知り、そういう自分がこの進み方で良い

のかという不安や疑問をもたれたことでしょう。そういう、それまでの疑問・行き詰まり・絶望を丁寧に聞いていただき、分かっていたとき、共感していただいて、「この尊敬できる師を全面的に信頼し、そのお言葉通りに歩んでいくよりほかに自分の進む道は無い」と、方向が定まり、往生浄土の確かな歩みが始まったのでしょう。

それまでも、「浄土三部経」を隅々まで学び、念仏を実践してこられたに違いありませんが、「よき人の仰せ」つまり法然上人から語られた言葉は、千天の慈雨のように、宗祖の全身にしみこんでいき、確信を持って数多の難行と決別し、「本願を信じ念仏申す」以外に自分のできることは無いと、「無碍の一道を貫いていかれたと思います。

私たちの日常の発想は、どうしても「等価交換」（つまりギブ・アンド・テイクになります。つまり、欲しいモノは必要な対価（貨幣）を支払うことで得られるし、労働を提供したら当然その対価を要求できるはずという発想です。物品のみならず、地位であったり資格であったり、高い評価や達成を得るにも、それ相応の「努力」という対価」を払わねばならないのです。

「これが欲しけりやいくら払え」「これだけ働いたのだからいくら払え」。そうして、あらゆるものもこの貨幣に換算してしまうわけです。例えば、子育ての最中に「こんな一文にもならん子育てをするよりも、パートで働いたらいくらもえらるはずなの。」みたいなことが頭をよぎってしまう。

また、仏教の根本真理は「縁起法」です。「因は縁にふれて果となる」とつまり、「私」がどう一生懸命取り組もうが、縁は多方面に無限にあり、それゆえに私の思うようにはなりません。不如意です。「私」から始まる自力は無功なのです。たまたま縁に恵まれて上手くいったような気になることもあります。それを自らの気力努力で体力知力の限りを尽くせば成就するはずというのは、彼岸です。

二十年間の比叡山での戒律・学問・修行は、自力聖道門という私の知恵と努力の狭小な営みであったと知らされて、だからこそ阿弥陀の本願とはたらきが、この私のために注がれているのだと。「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなりけり」と、如来は自分の救いを目当てに出現され、私のためにほたらき続け、呼びかけてくだ

真城 義麿
愛媛県生まれ、四国教区善照寺住職。大谷大学大学院修士課程修了（仏教学専攻）。大谷中等学校教諭、大谷中等学校校長、真宗大谷学園専務理事等を歴任。著書は、「あなたがあなたになる48章」「ぶっきやうのぶっ！仏教はじめの一歩！」（CD）「仏教なるほど相談室」（以上 東本願寺出版）など多数。

真宗大谷派岡崎別院 落慶法要に寄せて

真宗大谷派善照寺
落慶法要講師
真城 義麿



そういうことになってしまいました。また、等価交換を上回って儲けるためには効率化、生産性ということになる。そうすると、何がどのぐらいできるかということ人間が選別・序列化され、場合によっては排除されていくのです。その世界は、できない者の居場所はありません。それは、仏道修行にも反映されてしまいます。何かを得るには相応の対価（努力）を払わねばならないという考え方で。これだけの学問を積み修行を成し遂げなければ、仏道の高い境地に達することなどあり得ないという考えが、いわば常識であったでしょう。逆に言えば、あれほどの修行を成就されたあの僧はすごいとの評価になります。それはおしなべて、主語私は「私が」の世界です。私は自らの苦悩を自覚して、私が発心して、私が出家して、私が戒律を守り、私が学問を積み、私が様々な修行を行って、私が自己点検して、私が改善して・・・と。しかし、自らを愚者として、阿弥陀如来の本願他力を信じお任せし、ひたすら念仏申す法然上人と時間をともにし、そのお言葉に耳を傾けて、実は「私が」というその「私は、その前に」如来が私のために（私のことを）「があって初めて成り立っていた」私であった。その圧倒的な本願他力はたまたがすでに私の身に成就して、念仏申す私はいすでに阿弥陀の浄土の定聚の数に入っているのだという確信になっていくのでしょうか。

ふかきみ法にあいまつる

「貨幣が大地を殺す」（あるいは「貨幣が出ると大地が死ぬ」という言葉があります。等価交換を前提として対価を払う発想が席卷すると、何の見返りも求めず黙ってあらゆるいのちを平等に支えてくださる「大地」が分かんなくなってしまうことでしょう。「大地」は恵みであり利他のはたらきです。これは「自力が他力を殺す」ということでもあります。自力を尽くし（私は努力という対価を払っ）ていると思っているこの私を、実は黙ってただ支えている大地が私に思いが至りません。「煩惱障眼雖不見」ですね。この岡崎別院の地が、宗祖親鸞聖人が「ふかきみ法（本願他力念仏の教え）にあいまつる」の地であり、現在の私たちのところまで「本願他力念仏の教え」が届けられている原点なのでありましょう。

忘年会・新年会

二〇二四年大晦日の午後三時より、歳暮動行がお勤まりになりました。また年が明けた二〇二五年元旦朝七時より、修正会がお勤まりになりました。二日とも、当院輪番より御法話があり、一年の節目として御門徒や三日講員、近隣の方がお参りされました。

お煤払い

二〇二四年十二月二十三日に、当院のお煤払いが行われました。例年は曇をたきほりを外に出しておりましたが、整備を終え最初であったこともあり、掃除機や窓ふきを中心とした掃除を参加者職員総出で行いました。当日ご参加いただいた皆様には、紙面をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

彼岸前仏具磨き

春季彼岸会並永代経の法要を前に、仏具磨きを行いました。これまで参加して下さっている方をはじめ、今回初めて参加された方を含め、約十八名の方に参加いただきました。お磨き後は、参加者でカレーをいただきました。



法要会館の御案内

総合整備事業において竣工しました法要会館では、法事や葬儀も執り行うことができます。通夜の後には、少人数のご家族で宿泊することも可能です。故人を通して、縁のある方々が語り合い、その時を共に過ごす場として、是非お使いください。部屋からは、岡崎別院の庭園が一望できます。また、以前と同様に、規模の大きい葬儀を本堂にて執り行うことも可能です。法要会館の使用についてご相談がありましたら、別院寺務所までお問合せください。



各種行事の御案内

有縁の皆様へ

左記の如く執り行いますので、万障お繰り合わせの上、御参詣くださいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

（落慶法要に伴い、例年とは予定が大幅に変更しておりますので、ご注意ください）

四月十九日（土）
別院落語会

四月二十六日（土）
総合整備落慶法要

五月十一日（日）
おかざきフェスティバル

五月二十三日（金）
三日講
「歎異抄を読む」

六月十三日（金）
三日講
「味読正信偈」

六月二十三日（月）
三日講
「蓮如上人を訪ねて」

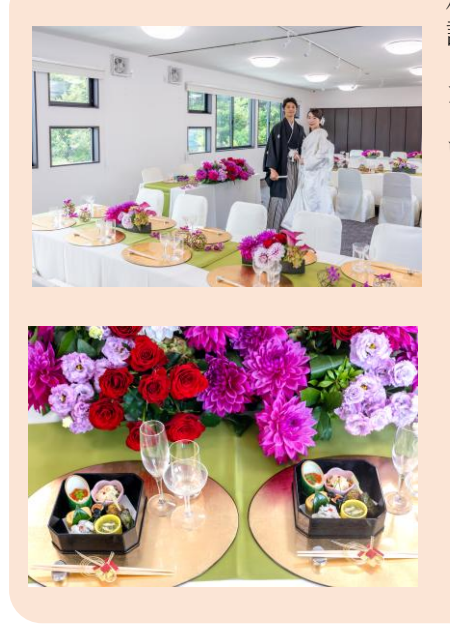
宗宝宗史蹟
親鸞聖人岡崎草庵蹟
真宗大谷派
岡崎別院

〒606-8335
京都市左京区岡崎天王町二六
TEL 075-771-2921
Fax 075-748-1665
Mail info@okazakibetsuin.com
HP <http://okazakibetsuin.com/>

列座のつぶやき

気づけば、落慶法要の日が目前となってきました。この原稿を書いている現在（三月上旬）は、ご参拝のお返事を取りまとめているところです。改めて、この岡崎別院が多くの御門徒の思いによって守られてきた事実を感じさせられることです。

本当に、こうした節目でしか感じられないこと、学べないことがたくさんあります。一つ一つを噛みしめながら、この法要をお迎えできればと思っております。（松岡）



結婚式予約状況について

結婚式は日程の仮押さえなどのお問合せも順次入っております。岡崎別院での挙式をご検討の方は、別院までお問合せいただきますようお願いいたします。

予約状況

・四月六日 某氏 ・四月二十日 某氏
・五月十七日 某氏

法要報告

十二月三十一日
歳暮動行
一月一日
修正会

二〇二四年大晦日の午後三時より、歳暮動行がお勤まりになりました。また年が明けた二〇二五年元旦朝七時より、修正会がお勤まりになりました。二日とも、当院輪番より御法話があり、一年の節目として御門徒や三日講員、近隣の方がお参りされました。



各種会費のお願い

四月より新年度となります。例年、御門徒の皆様には年間維持費、三日講の方には三日講費をお願いしております。同封の御案内をお読みいただき、ご協力をお願い申し上げます。また、今年度より、納骨堂における「護持会費」についても、該当者に御案内を同封させていただきます。ご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

毎朝7時の おあさじにお参りください

別院では、毎朝七時頃より晨朝勤行（朝のお勤め）を勤めております。近隣にお住いの方や、隣接するホテルの宿泊者など、様々な方面からお参りに来られています。動行中は出入り自由ですので、是非毎朝の習慣として、お参りください。



結婚式の ご報告

一月二十六日
内田 裕之さん
睦さん



三月十五日
中久保 颯汰さん
由梨乃さん



節目が織り成す仏法の縁 『岡崎別院総合整備 落慶法要』を機縁として

輪番 福田 大

何事にも、誰にも節目があるように念う。
お寺の一年の節目は、春夏秋冬のなかでの仏事（修正会・春季秋季彼岸会・永代経・盂蘭盆会・報恩講）である。人間の節目には、誕生、入学、進学、成人、就職、結婚、と節目があるように、私自身もその瞬時を経て今ここに生きている。

当院においても、幾つもの節目を経てきている。親鸞聖人が法然上人の下へ、教えを聞くため「百か日、降るにも照るにも、いかなる大事にも、参りてありしに、」（恵信尼消息）に通われ、その当時から住まわれていた親鸞聖人草庵から始まったここ岡崎別院も、東本願寺第二十代御門首の達如上人によって現在の本堂（二層式屋根の道場造り）が建立された。以来、時代の変遷のなか、地震や台風などの風雪に耐え、無数の法座に無数の聴聞者を、長年に渉り包んできた本堂である。

長年の変遷の節目を経て、このたび、二〇二五年四月二六日には大きな節目としての『岡崎別院総合整備 落慶法要』を厳修させていただきます。長期に亘り、岡崎別院の役員をはじめ御門徒や三日講員の皆様方、整備委員や法要委員の皆様方、真宗大谷派宗務所をはじめ関係各位の皆様方、京都教区山城第一組、京都教区山城第二組の住職・坊守・老僧・若院、門徒会、等の多くの方々と関係各社の御尽力とご協力によって円成できることであります。この紙面をお借りしてここに深く御礼を申し上げることでございます。今後は、この節目『岡崎別院総合整備 落慶法要』を大切な機縁として、親鸞聖人岡崎草庵蹟の当院としては、お寺が担われている人生の節目を法縁の機縁にしていきたい。

例えば、初参式、帰敬式、成人式、結婚式、還暦式等、生活のなかにある大切な節目の意義を見出しつつ、報恩講をはじめとして一年の春夏秋冬の仏事（修正会・春季秋季彼岸会・永代経・盂蘭盆会・報恩講）のなかで、仏の願われた私への願いに聞いていくことの出来る場でありつづけたい。

昨今は、“お寺離れ”、“仏事の簡略化”の傾向にあることは皆様もご承知のことだろう。それでは、何故、“お寺離れ”や“仏事の簡略化”になってきたのだろうか。それは、節目と真向かいになり、節目を受入れ難くなったことに起因するように、私には念えてならない。葬儀や法事は、亡き人にお勤めするだけの仏事ではない。亡き人がこの私に問い続けている「生まれた意義とは何か」、「何を願いとして生きるのか」、「死んでいく身を今、生きている。その一大事に遭遇しているか」、「あなたも死んでいくのですよ」と、その問いを聞いていくための私にとつての節目である。亡き人が生きてこられた姿や、面影や、遺された言葉から、この私が、今一度問われる大きな節目が、葬儀や他の仏事をお勤めしていくことの願いではなからうか。

人生の節目に私が、このこと一つを問いつづけられる場としての、お寺の役目がここにあるように念う。この一大事を担っている場としてのお寺で在り続けることを、皆様と、共に確認するための大切な節目が、今回の『岡崎別院総合整備 落慶法要』であると、私自身、念わせられることである。皆様方におかれましては、この貴重な節目である岡崎別院総合整備 落慶法要に暇をあけてご参詣を頂きますよう、何卒、御願い申し上げます。

写真で見る岡崎別院



↑清沢満之先生五十回忌法要が当院にて行われた。

岡崎別院は、親鸞聖人の岡崎の草庵蹟として、宗派や地域を超えて多くの方々から道場として守られてきました。

御遠忌

約五十年前の昭和四十六年には、三昼夜（四日間）にわたり、当院にて「宗祖親鸞聖人七百回御遠忌」が執り行われた記録が残っています。

詳細は不明ですが、残る写真からは、当時の御門首を中心に、多くの方が参拝されている様子が伺えます。



↑（3枚）昭和46年の御遠忌法要当日の様子。
列をなして本堂へ入室する「庭儀」では、お稚児さんも列に加わり、華やかな様子が伺える。

葬儀の場

また、社葬の会場として、県内外から多くのお参りに来られる場所でもありました。時代は変わり、葬儀の形も変わっていきいますが、現在も葬儀の場としても多くの方が当院に足を運ばれています。



↑平成8年の葬儀の際の山門。規模の大きな葬儀では、お焼香の列が別院の外まで延々と伸びたこともあった。



↑2010年3月に行われた「こども御遠忌」では、教区内の若院を始めとした多くの子どもさん達が当院に足を運ばれた。

法要会館完成

時代へのニーズが変化していく中で、これからの時代においてもこの別院が教えを聞く道場であり続け、儀式行事を通して人と人々が集う場であり続ける為、数多くの設備が一新されました。

館内はバリアフリー化され、足腰が不自由な方にも参拝しやすい造りとなっています。



↑本室内には冷暖房が完備され、照明が全てLEDとなっている。椅子席も完備され、床暖房も設置された。



↑寺務所は二階建てとなり、二階には各種研修、お齋に使われる会場ができた。



↑納骨堂は、随時申込受付しております。様々な種類の納骨壇がありますので、是非一度お問合せください。

参拝者用の当院パンフレットが新しくなっております。是非お参りの際に、お持ち帰りください。



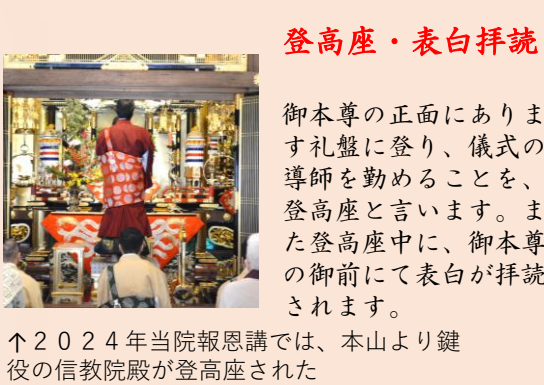
総合整備の集大成

来る四月二十六日に、「岡崎別院総合整備落慶法要」が勤まります。

法要に関しては、近隣の御寺院方や有識者で構成される、「法要委員会」が設立され、幾度となく会議を繰り返して、計画されました。

「法要委員会」では、「法要部」「祝賀部」「イベント部」「広報部」の四部門に分かれ、それぞれに会議を重ねながら四月を迎えます。

二〇二一年九月に「動座式」を行い、同年十二月に「起工式」を執り行いました。



↑2024年当院報恩講では、本山より鍵役の信教院殿が登高座された



↑2016年に真城義麿師が当院にて御法話された

御法話
「ふかきみ法にあいまつる」

勤行の後には、真城義麿師（四国教区善照寺）より「ふかきみ法にあいまつる」を講題に御法話いただきます。



四月二十六日 落慶法要が勤まります

5/11

おかざき
フェスティバル

法要記念行事として、別院境内において「おかざきフェスティバル」が開催されます。当日は本堂にて花まつりが行われる他、境内に野外ステージが設置され、音楽ライブが開催されます。また子供さんも楽しめる体験コーナーや、キッチンカーも出店します。是非、ご家族やご友人と一緒にお越しください。

入場無料 参加申込不要



↑写真は2021年に開かれた「花まつり」にて、キッチンカー出店の様子



↑写真は2016年に開かれた「オカザキプレイ」の様子



↑庭園も大幅に整備された。別院への参拝者は、こちらの庭園も散策していただけることとなっている。